

突撃おたま苦楽部

2014.6.15 (Sun)



新納悠記 & スーパー アコースティックス

ウクレレ: 新納悠記
コントラバス: 俵山昌之
パーカッション: 仙道さおり

One night stand live

弱冠25歳 天才ウクレレプレイヤー 新納悠記の新たな挑戦！
～本邦屈指のリズム隊とのコラボレーション～

Open:18:30 Start:19:00

♪おたま苦楽部が全く新しい音楽の楽しみ方を提案

主ホールの広い舞台を利用し
客席を演奏スペースと同じバックヤードである舞台上に設置
素晴らしい景観を誇る観客席を背景にミュージシャン目線で音楽を聴くという
本邦初と言える全く新しいスタイルのコンサートを提案
滅多にできない体験をお楽しみあれ！

会費:シングル4000円 カップル7000円 当日 一律5000円

会場:穂の国とよはし芸術劇場PLAT 主ホール

チケット取扱い
プラットチケットセンター 0532-39-3090 <http://toyohashi-at.jp>
たつおクリニック 0532-46-4970

協力:ドスコの窓・こすたりか

PLAT
THEATRE COLLEGE

city
garden

問い合わせ:たつおクリニック 電話0532-46-4970

ZINNO YUKI & SUPER ACOUSTICS

天才ウクレレ・プレイヤー 新納悠記 降臨！

～Live concept～

今春、2月にカフェアコーディアナさんで新納悠記さんのソロコンサートが行われ今回はその2弾となる。
その時、多くの人からあがった声「ウクレレの概念が変わった！」と言う言葉だった。
想像していた、ユルユルのあのハワイアンではなく、ギターのように緻密で抒情的そしてグルービーな世界を垣間見たのであろう。
今回おたま苦楽部で企画したのは、ソロパフォーマンスからさらに発展してリズムセクションを加えようというものだ。
ウクレレソロの場合、ベース、リズム、メロディーを一人でプレイするわけだが、リズムセクションが加わることにより、
プレイに余裕ができ、その分ただのアンサンブルではないアドリブ等々更に発展したものが期待できよう。
以下に、前回のライブの案内に記したものを引用する。

本当に偶然である！
たまたまユーチューブを見ていて、ウクレレ演奏、SMAPの「夜空の向こうに」が目にとまる。
奏者「新納悠記」、何やら「聖闘星矢」を彷彿するケッチイな名前。
どうせ劇画マニアのガキがアップしたんだろうと思いつつ、どうゆうわけか運命のクリック。
流れてくる演奏を聴いて目が釘づけ！腰を抜かすほどビックリ！
上手く表現できないが、そのとてつもなく大きな「音楽性」にノックアウト！
久しぶりに感動しました。マイッタ、降参です。
更に驚いたことは、若干25歳で、ウクレレを始めて4年目ということです。
早速、ネットでHPを見つけ得意のメール攻撃。
唐突に「おたま苦楽部」への出演依頼。
一か月後 10月11日の大阪でのライブに行ってきました。
マシンガン攻撃です。
演奏は素晴らしいのひとことに尽きます。
何が素晴らしいかというと「グルーブ感」と「音の素晴らしさ」です。
是非彼の素晴らしいプレイを御賞味あれ！
おっと、その前にユーチューブをチェックしてみてください。
私のお勧めはウクレレ2本とギター1本の本人による多重録音の「夜空の向こうに」！
絶品です。

(山本達雄 記)

★新納悠記:ウクレレ



2009年にウクレレに出会う。
同年の「第五回ジ・ウクレレコンテスト」にて早くもグラミー賞の常連ダニエル・ホーなどから
審査員全員一致で大賞を受賞。
更に世界的ウクレレプレイヤー、ジェイクシマブクロ氏を審査員に迎えて行われた
「LET'S PLAY UKULELE CONTEST」にてグランプリを受賞。
「JAKE SHIMABUKURO I LOVE UKULELE TOUR 2010」渋谷オーチャードホール公演
にてオープニングアクトを務め、
ジェイク本人からもその従来のウクレレのイメージを覆すパフォーマンスを絶賛された。
現在はウクレレをメインに、
ソロはもちろんギタリストとのデュオ、ニードアンドゴーゴーでも活動している。

★俵山昌之:ベース



中学生よりギター、高校生よりエレキベースを始める。19歳でウッドベースを始め、ライブハウス等で
活動し始める。
益田幹夫(p)トリオで初レコーディングし、その後 渡辺貞夫、日野皓正、大野雄二、山下洋輔 等々
と共演し、多くのミュージシャンから大きな信頼を得ている。
最近では、自己のグループ「タワーステーション」サムライビバトリオなど多忙をきわめている。
おたま苦楽部の常連ベーシストであり、個人的にも大好きなベーシストであり、力強く安定したビート、
洗練されたベースラインは高く評価されている。
SJ誌のベース部門 人気投票では毎年上位に選出されている。

★仙道さおり:パーカッション



1975年生まれ。5歳よりドラム、13歳よりクラシックパーカッションを学ぶ。
東京音楽大学付属高校卒業後、ラテンパーカッションを学び、19歳よりプロ活動を開始する。
林正樹、小沼ようすけ、coba、葉加瀬太郎、長谷川きよし etc 数多くのアーティストと共演している。
現在、本邦女性パーカッション No.1 の呼び声も高い。